

令和 6 年 9 月 13 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H00023

研究課題名（和文）在外日本関係史料の調査と貴重史料の研究資源化による維新史料研究国際ハブ拠点の形成

研究課題名（英文）Forming an international hub for research on the Meiji Restoration by surveying historical documents related to Japan overseas and digitally archiving valuable historical documents

研究代表者

保谷 徹 (HOYA, Toru)

東京大学・史料編纂所・名誉教授

研究者番号：60195518

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,070,000円

研究成果の概要（和文）：在外日本関係史料（露国をはじめ、英・仏・独・蘭国史料など）の調査・収集と研究資源化を推進し（新規公開18.4万コマ・今後の公開予定7.8万コマをDBへ追加）、「史談会本」（約2100冊の幕末維新期史料）や北方関係史料など、貴重史料13.6万コマのデジタルアーカイブ化を実施して史料研究を進めた。幕末維新史の基幹的な編年データベース「維新史料綱要データベース」（2.9万項目）の英訳事業を推進し、研究用語や史料用語の英訳グロッサリー研究を通じて、維新史研究の国際ネットワーク作りに貢献した。国内・海外の一次史料にもとづく明治維新研究を進め、国際研究集会の実施や国内外での研究成果の発信をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歴史研究の基礎は史料収集と史料研究にある。調査・収集された在外日本関係史料は、東京大学史料編纂所の閲覧室端末等でデジタルアーカイブのかたちで公開され、デジタル化された貴重史料「史談会本」等は広くウェブ公開される。また、「維新史料綱要データベース」の英訳化は、維新期の基幹史料集である「大日本維新史料稿本」4200冊・70万コマについて、海外からの検索・閲覧を手助けするツールとして利用される。国内外の一次史料研究による幕末維新史研究の成果は高い学術的意義をもち、維新期史料のデジタルアーカイブ化は研究者・市民のアクセスを格段に促進する。また、国際的な発信を強化することの学術的社会的意義も大きい。

研究成果の概要（英文）：This study promoted the research and collection of historical documents related to Japan overseas, including Russia and UK, France, Germany, and the Netherlands, and the creation of research resources (newly released 184,000 frames, 78,000 to be released). Digital archiving of 136,000 frames of valuable historical documents, including "Shidankai-collection" (approximately 2,100 volumes) and documents related to the northern, was conducted to promote research on historical documents. We have promoted the English translation project of the "Summary Database of the Ishin shiryō" (29,000 items) and contributed to the creation of an international network for the study of Restoration history through research on English glossaries of research terms and historical documents. We have promoted research on the Meiji Restoration based on domestic and overseas primary sources, held international research conferences, and disseminated research results in Japan and abroad.

研究分野：幕末維新史

キーワード：日本史 幕末維新史 在外日本関係史料 研究資源化 史談会 デジタルアーカイブ 史料学 明治維新

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究代表者らが所属する東京大学史料編纂所では、古く戦前期から在外史料の調査・収集を開始している。戦後は、日本学士院から未刊行在外日本関係史料の調査事業を委嘱され、1950～60年代、1970～80年代の二期にわたって、海外諸機関所蔵の日本関係史料の収集をおこなってきた。研究代表者らは1990年代末から、それまで不十分だったロシアや東アジア諸国の史料調査に取り組み、「前近代東アジアにおける日本関係史料の研究」等の先行研究において、ロシア国立歴史文書館、ロシア国立海軍文書館、中国第一歴史档案館が所蔵する日本関係史料について計5冊の史料目録を刊行し、史料収集とデジタルアーカイブ化を進めてきた。本研究では、これまで積み上げてきた海外調査と共同研究の成果を軸に、明治維新150年を機に重点的な史料収集を実施してこれまでの研究の集大成をはかるものとし、あわせて東京大学史料編纂所が所蔵する貴重史料の研究資源化、かかる蓄積をベースに着手されたデータベース英訳化事業と英訳グロッサリー研究を支援し、幕末維新史料研究の国際ハブ拠点化を推進することを目指した。

2. 研究の目的

日本の近代化を決定づけた維新変革から150年がたった。この「明治維新150年」を契機に、内外の幕末維新関係史料の調査と研究資源化を進め、維新史の国際化に向けて新たな研究の飛躍をはかることが目標となった。具体的には第一の柱として、在外日本関係史料の調査・研究をあげる。歴史学の基礎は、素材となる史料の調査・収集が支えている。日本史の史料には、外国に所在する日本語の史料、あるいは現地の外国語の史料も含まれ、こうした海外に所在する史料(在外史料)の調査・収集は欠かせない。国内史料のみならず、諸外国の史料群を用いて複数の視座から史実の解明を目指すマルチリンガル、マルチアーカイヴァルな手法によって、19世紀初頭の対露交渉を含め、幕末維新関係の在外日本関係史料を19世紀に絞り込んで調査・研究し、これまでの研究プロジェクトを継承・深化させるものとした。第二の柱は、維新関係史料のデジタルアーカイブ化である。海外史料の調査・研究とともに、これまで未着手であった国内最大の維新関係貴重史料群の調査と研究資源化を行いたい。戦前期の維新史料編纂事業が残した膨大な収集史料や「稿本」類が東京大学史料編纂所に伝わっている。この貴重史料を研究資源化し、オープンデータとしてウェブ上で公開して市民・研究者での共有化をはかることが出来れば、研究の裾野も広がり、維新史研究の一層の飛躍が期待できる。第三の柱として、維新史研究の国際化をあげる。デジタルアーカイブのウェブ公開自体が国際化の重要なステップだが、あわせて基幹的データベースの英訳化と英訳グロッサリー研究プロジェクトに取り組む。海外の維新史研究者との交流をはかって、国際的な研究ネットワーク構築による維新史研究のさらなる国際化を図り、国際発信を促進するものとする。

3. 研究の方法

本研究における3つの課題ごとにチームを編成し、この有機的連携によって研究を推進した。

(1) 19世紀の在外日本関係史料調査と研究資源化の課題

ロシア所在日本関係史料調査と所蔵史料についての共同研究(ロシア・班):ロシアの旧都サンクトペテルブルクのロシア国立歴史文書館(所蔵700万ファイル)・同海軍文書館(所蔵140万ファイル)・ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所と東京大学史料編纂所が締結した研究協力協定に基づき、帝政ロシア政府史料の調査・収集を中核とするロシア所在史料の調査研究の実施、東洋古籍文献研究所の所蔵史料についての共同研究の実施、お

よび国際研究集会の開催を課題とした。

コレクション形成史からみる 19 世紀日露関係史に関する調査研究（ロシア 班）：北海道大学のチーム（研究分担者：谷本）とロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所との研究協定にもとづき、関連資料の再検討をおこなう。また、北方史料の研究資源化をはかり、共同研究推進の方策をさぐるものとした。

南欧史料の調査（南欧班）：ポルトガル・スペイン・イタリアなど、幕末・明治期の南欧史料の調査・研究を実施する（研究分担者：岡）

欧米所在日本関係史料の補充調査・収集（欧州班）：上記以外の欧米の国立文書館等で、これまで未調査・未収集の史料を点検して複製による収集をはかる。横浜開港資料館など国内機関との連携によるデジタルアーカイブ公開を拡大する方策をさぐる。

（2）維新関係貴重史料の調査と研究資源化の課題（デジタルアーカイブ班）

東京大学史料編纂所が所蔵する幕末維新期の貴重な原本・写本史料のうち、約 20 万コマ程度を対象を絞り込んでデジタル撮影し、目録データを作成・入力してデジタルアーカイブ化しウェブ公開・発信する。画像公開は東京大学史料編纂所のサーバから行われ、IIIF（トリプルアイエフ）によるオープンデータとして画像を発信する（国際標準 CC-BY を適用）。

（3）維新史研究の国際化：データベース英訳・英訳グロッサリー研究の課題（英訳研究班）幕末維新期の基幹史料を集大成した「大日本維新史料稿本」4200 冊の網文（タイトル）データベース 2.9 万項目の英訳作業を支援する国際的な研究ネットワークを築き、歴史用語・研究用語の翻訳グロッサリーに関する共同研究に取り組む。英訳研究を通じた国際的研究交流の基盤形成を進め、情報交換、研究交流に取り組む。

上記 ~ の課題は、有機的な連携と相互補完的な位置づけにあり、国内外の一次史料に基づき、世界史の中の新たな明治維新研究に取り組むものとした。そのためにも国際的共同研究を推進して国際研究集会を実施し、さまざまな国際会議などでの成果の発信をはかる。

4. 研究成果

本研究の成果としては、4 年間で発表した論文 33 本、著作 6 冊（共編著含む）、学会報告 25 本、主催した国際研究集会は 6 回である。

（1）19 世紀の在外日本関係史料調査と研究資源化の課題

本研究開始の直前におこったコロナ禍により、研究期間の大半において海外での史料調査や海外からの研究者招聘が不可能になった。そのため、国内機関と連携した在外日本関係史料のデジタルアーカイブ化やこれまで収集した海外史料の整理・公開などに重点を置き、国際研究集会などもオンライン開催とするなどの工夫をおこなった。

ロシア 班では、ロシア国立歴史文書館・同海軍文書館などとの研究協力協定に基づき、2020 年には「日露関係史料をめぐる国際研究集会」を誌上開催した（東京大学史料編纂所・日本学士院共催）。その後はコロナ禍やウクライナ戦争の影響で研究者招聘および出張調査は断念し、ロシア史研究者保田孝一氏（故人・岡山大学名誉教授）旧蔵の日露関係史料複製コレクションの整理（全 161 冊）や紙コピーで収集した複製史料分の整理・目録化（全 28 冊）を実施し、東京大学史料編纂所の書庫におさめて公開した。先行研究で収集したデジタル史料画像も閲覧室端末で順次データベース公開している

ロシア 班もコロナ禍とウクライナ戦争によって活動が制限されたため、共同研究の素材としてのアイヌ・北方史関係史料のデジタルアーカイブ化へ重点を置いた。とくに北方関係の地図・絵図類の高精細データを撮影し、いずれも北海道大学附属図書館「北方資料データベース」でウェブ公開した。2023 年末には、ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所の研究協力者を招聘し、研究会（第 15 回ポドゾル会）を開催している。

南欧班では、2021 年 2 月、国際研究集会「幕末・維新期の日伊関係史料」をオンラインで開催し（東京大学史料編纂所共催）、イタリア貴族による日本・シベリア訪問記「日本とシベリア」（ルキーノ・ダル・ヴェルメ著、1885 年改正第二版 初版は 1882 年）の翻訳・

研究を進めた。とくに外務省外交史料館が所蔵するイタリア皇族来日関係史料の調査・収集を実施し（2340 コマ）、史料集としての出版準備をおこなった。

欧米班では、横浜開港資料館と連携して同館が所蔵する英国外務省史料マイクロフィルム（本所未収集分）からの追加デジタル化分のデータ整理と東京大学史料編纂所の所蔵分を含めて両館で連携公開した（両館の閲覧室端末で19世紀いっぱい約9.2万コマを新規公開、累計66万コマ）。続けてフランス外務省史料マイクロフィルム（未収集分）6.8万コマのデジタル化をおこない、2020年10月からフランス外務省文書館との交渉をはじめ、2024年4月、同文書館長と最終合意に達した（2024年中に公開予定）。そのほか、露国をはじめ、英・仏・独・蘭国史料のデジタルアーカイブ公開をすすめた（海外史料の累計236万コマ）。

2023年度、海外調査を再開し、オランダや英仏所在日本関係史料の調査を実施した。TNA所蔵英国海軍省文書の調査・撮影をおこなった。南欧班ではポルトガル所在史料の調査（リスボン科学アカデミー文庫）を実施している。

（2）維新関係貴重史料の調査と研究資源化の課題

維新関係貴重史料の調査と研究資源化の課題では、「史談会本」計2112冊（12万3838コマ）の撮影を完了し、順次ウェブ公開に供した。史談会は、1888年に開始された宮内省の旧藩事蹟取調事業のなかで翌1889年に発足し、全国的に大名・華族の史料調査を進めようとした組織である。その調査・収集による史料群「史談会本」2554冊が明治38（1905）年、史談会（会長由利公正）から文部省へ納付されている（翌年東京大学史料編纂所へ交付）。この「史談会本」の内容と来歴について、2023年度の国際研究集会でとりまとめて報告した。

2023年度はさらに、明治政府の外務省から引き継いだ外交史料群：外務省引継書類中の外交紀事本末底本の撮影をおこなった（約1万コマ）。

また、「皆川遯堂関係史料」（全61点）：東京府士族皆川昌（宗昌）の史料群を購入し、研究に供した。履歴・系図に加え、「蝸廬叢書」（25冊）と題した幕末の情報留が目をひく。一部を『幕末事変録』（博友社、明治27年）として刊行したものの原本と考えられ、全点撮影してデジタル公開した（約2800コマ）。

（3）維新史研究の国際化：データベース英訳・英訳グロッサリー研究の課題

維新史料研究国際ハブ拠点形成プロジェクト（小野将代表）と連携し、「維新史料綱要」データベース英訳事業と英訳グロッサリー研究を支援した（データ項目2万2800項目の英訳を完了）。

オンライン国際研究集会「維新史料研究と国際発信」（東京大学史料編纂所主催）を毎年開催し、外国人研究者（のべ9名）を招聘して研究成果の報告をおこなった（計4回）。

在外日本関係史料収集事業については、日本資料専門家欧州協会（EAJRS）第31回大会（サンクトペテルブルク開催）でオンライン報告（2021年9月）をおこなったほか、日本学士院UAI関連事業「在外未刊行日本関係史料蒐集事業」100周年・日蘭交渉史研究会70周年記念シンポジウム（東京大学史料編纂所・日本学士院主催）においてオンライン報告（2022年1月）、明治維新史学会第52回大会におけるオンライン講演「在外日本関係史料の調査と幕末維新史研究」（2021年6月）をおこなった。

そのほか、ロシア連邦サンクトペテルブルク市主催「ニコライ二世東方旅行130年記念国際学術会議」でのオンライン報告（2021年5月）、EAJRS第33回大会（ルーヴェン：ベルギー、2023年）、アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）主催国際シンポジウム「近世日本列島北部地域の光と影」（フランス・コルマル市、2023年）など、研究代表者や分担者が海外での国際研究集会に参加・報告し、研究成果の国際発信をおこなった。現在出版準備中のOxford Handbook of Meiji Japanにも2論考を執筆している。

以上のような研究活動を遂行し、維新史料研究の国際ハブ拠点形成を推進した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 水上たかね（・山本瑞穂・横山伊徳）	4. 巻 34
2. 論文標題 オランダ国立文書館所蔵「横浜（総）領事館文書」1860年往復文書目録	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 18-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 保谷 徹	4. 巻 18
2. 論文標題 幕府の鎖港要求と下関戦争	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 山川歴史PRESS	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 将	4. 巻 3
2. 論文標題 第7章：幕末の日本、19世紀の世界	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 荒木裕行・小野将編『日本近世史を見通す』3体制危機の到来：近世後期	6. 最初と最後の頁 161-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 3
2. 論文標題 第5章：一九世紀の蝦夷地と北方地域	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 荒木裕行・小野将編『日本近世史を見通す』3体制危機の到来：近世後期	6. 最初と最後の頁 102-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 0
2. 論文標題 「アイヌ漆器」を用いる和人ー近世蝦夷地在地社会における文化複合の一断面ー」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 浅倉有子編『漆器からみるアイヌの社会と文化』北海道出版企画センター	6. 最初と最後の頁 109-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 10
2. 論文標題 私の研究：北海道で進める日本近世史研究 アイヌ史あるいは先住民 族史との対話の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山川歴史PRESS	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 92
2. 論文標題 16世紀日本におけるイエズス会の食文化外交	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美穂子	4. 巻 33
2. 論文標題 史料紹介「一五七二年十月五日付、天草発、ルイス・デ・アルメイダの書翰」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 保谷徹	4. 巻 33
2. 論文標題 在外未刊行日本関係史料蒐集事業のあゆみ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保谷徹	4. 巻 22
2. 論文標題 在外日本関係史料の調査と幕末維新史研究－幕末外国関係文書の編纂との35年間にもとづいて－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治維新史研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 695
2. 論文標題 「札幌市民第一号」琴似又市氏のこと～幕末維新期の札幌とアイヌ社会～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 開発こうほう	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 122
2. 論文標題 時代区分論から考える「中・近世」の「北日本」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arctic Circle	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 -
2. 論文標題 蝦夷通詞とアイヌ語地名	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」連続講座・特別フォーラム 講演記録	6. 最初と最後の頁 69-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久・小川正人	4. 巻 -
2. 論文標題 第5章 アイヌが描いた未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館〔編〕『学びの歴史像 - わたりあう近代 - (企画展示図録)』	6. 最初と最後の頁 157-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 -
2. 論文標題 「恵曾谷日誌」に描かれたアイヌ 明治初頭の北海道日本海岸南部の文化状況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道博物館・群馬県立歴史博物館・公益財団法人アイヌ民族文化財団〔編〕令和3年度アイヌ工芸品展図録『アイヌの暮らしー時代・地域・さまざまな姿』	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本晃久	4. 巻 -
2. 論文標題 工芸品に込められた主張 「完全ナル社会人」をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道博物館・群馬県立歴史博物館・公益財団法人アイヌ民族文化財団〔編〕令和3年度アイヌ工芸品展図録『アイヌの暮らしー時代・地域・さまざまな姿』	6. 最初と最後の頁 158-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水上たかね	4. 巻 -
2. 論文標題 幕末期の日蘭関係オランダ語史料への入口 横浜領事館文書と関連史料	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 松方冬子編 『オランダ語史料入門 日本史を複眼的にみるために』	6. 最初と最後の頁 115-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru HOYA	4. 巻 -
2. 論文標題 A Military History of the Boshin War,	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Edited by Robert Hellyer, Harald Fuess, " The Meiji Restroration- Japan as a Global Nation "	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 保谷 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 ロシア史料調査と共同研究の二〇年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生田美智子監修、牧野元紀編 『ロマノフ王朝時代の日露交流』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保谷 徹	4. 巻 33
2. 論文標題 戊辰戦争と薩摩藩 「薩藩戊辰戦役戦闘史料稿本」を題材に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 黎明館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本 晃久	4. 巻 1003
2. 論文標題 文化財の「活用」は可能か? : アイヌの「文化財」から考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本 晃久	4. 巻 -
2. 論文標題 金田一京助夫妻の近世アイヌ語辞書写本：北海道・滝川本とロシア・サンクトペテルブルク本と	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生田美智子監修、牧野元紀編『ロマノフ王朝時代の日露交流』	6. 最初と最後の頁 328-350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷本 晃久	4. 巻 280
2. 論文標題 「アイヌ民族がたどった「近世」」・「千島アイヌと樺太アイヌ」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 別冊太陽編集部編『アイヌをもっと知る図鑑：歴史を知り、未来へつなぐ』（別冊太陽280・総ページ数：159）	6. 最初と最後の頁 54-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡 美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 近代の日本とマカオ、そしてポルトガル 香港および中国との関係という視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇（共編）『描かれたマカオ ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史』	6. 最初と最後の頁 156-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡 美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 マカオからみる十六・十七世紀の日・タイ関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 飯島明子・小泉順子編『世界歴史体系 タイ史』	6. 最初と最後の頁 198-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡 美穂子	4. 巻 -
2. 論文標題 大航海時代のキリスト教と東アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 染谷智幸編『東アジア文化講座1巻：はじめに交流ありき--東アジアの文学と異文化交流』文学通信	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡 美穂子	4. 巻 223
2. 論文標題 海と権力—宣教師報告に見る畿内=九州移動ルートの分析を手掛かりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 387-405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山伊徳	4. 巻 228
2. 論文標題 米国国立公文書館所蔵万延元年遣米使節関係文書について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告 (通常号)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto, Fumiko.	4. 巻 -
2. 論文標題 Political Cartography during the Tokugawa Era.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 the Oxford Research Encyclopedia of Asian History. Ed. David Ludden. New York: Oxford University Press (http://asianhistory.oxfordre.com/ 2020年9月からオンライン公開)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 759
2. 論文標題 絵図の史学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 121-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 セルゲイ・チェルニャフスキー	4. 巻 31
2. 論文標題 ロシア国立歴史文書館の文書デジタル化とデジタルコピー利用の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 304 - 309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ワレンチン・スミルノフ	4. 巻 31
2. 論文標題 ロシア海軍軍人による日本地図作成 (1730年代-1820年代) -海軍大将イワン・クルーゼンシュテルン生誕250周年記念に寄せて-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 310-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ワジム・クリモフ	4. 巻 31
2. 論文標題 サンクトペテルブルクにあるロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所写本フォンド・コレクション所蔵の2冊の帳簿	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 323-339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計25件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 「アイヌ史の時代」をどう捉えるか～その広がりや連なりから考える～
3. 学会等名 国立アイヌ民族博物館 第7回特別展示「考古学と歴史学からみるアイヌ 史展 - 19世紀までの軌跡 - 」開会記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 「蝦夷通詞」と学知と：近世・近代移行期から「アイヌ教育史」を考える
3. 学会等名 教育史学会第67回大会シンポジウム「アイヌ教育史研究の現在：研究の有効性を不断に問う」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 北の東西交流と千島アイヌの世界
3. 学会等名 アルザス欧州日本学研究所 (CEEJA) 主催シンポジウム「近世日本列島北部地域の光と影」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 北海道「開拓」の光と影～アイヌ民族にとっての近代～
3. 学会等名 アルザス欧州日本学研究所 (CEEJA) 主催シンポジウム「近世日本列島北部地域の光と影」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mizukami Takane
2. 発表標題 De studenten van het Tokugawa-shogunaat en Johann Joseph Hoffmann (1805-1878)
3. 学会等名 Vergadering van het Nederlands Genootschap voor Japanse Studien (NGJS), Universiteit Leiden (Leiden, Nederland) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takane Mizukami
2. 発表標題 De studenten van het Tokugawa-shogunaat en Johann Joseph Hoffmann (1805-1878) ”(「幕府オランダ留学生とライデン大学教授 Hoffman」)
3. 学会等名 Workshop “Towards a New Phase of Historical Climatology: Dutch Navy Logbooks and Climatological Information” (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 水上たかね(・渋谷綾子・中村覚・平澤加奈子)
2. 発表標題 日本史史料の科学研究: オープンサイエンスと国際化の推進に向けて
3. 学会等名 第33回日本資料専門家欧州協会年次大会、Faculty of Arts, KU Leuven (ルーヴェン: ベルギー)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 水上たかね
2. 発表標題 戊辰戦争の一史料を読む 東京大学史料編纂所の事業紹介を兼ねて
3. 学会等名 KU Leuven (ルーヴェン：ベルギー) にて、現地の日本学研究者・学生に向けた講演 (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 維新ハブP J の成果と課題 - 戊辰戦争と維新史料網要 D B
3. 学会等名 東京大学史料編纂所国際研究集会「維新史料研究 と 国際発信」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 北の東西交流のはじまり ラクスマン父子と大黒屋光太夫との出会い の世界史的意義
3. 学会等名 ラクスマン大黒屋セミナー：日フィン友好年2022関連事業、在フィンランド日本国大使館・フィンランド国立公文書館・北海道大学共催 (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷本晃久
2. 発表標題 記述されるアイヌの文物 近世の文献資料から考える
3. 学会等名 国立アイヌ 民族博物館第5回特別展示シンポジウム「アイヌ資料をコレクションすることを考える」、国立アイヌ民族博物館主催 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡美穂子
2. 発表標題 ルイス・デ・アルメイダの旅と生涯
3. 学会等名 長崎県主催 キリシタンと日本 シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 水上たかね
2. 発表標題 江戸幕府の幕末軍制改革 人材登用の光と影
3. 学会等名 シーボルト会、蘭塾 RAN Education ライデン本校 (オランダ)、オンライン配信併用 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 在外日本関係史料の調査と幕末維新史研究－幕末外国関係文書の編纂との35年間にもとづいて－
3. 学会等名 明治維新史学会第52回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保谷 徹
2. 発表標題 II, - 20- (ニコライ2世、サンクトペテルブルクと日本－日露関係史料の共同研究20年の歩みと大津事件－)
3. 学会等名 130- (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保谷 徹
2. 発表標題 在外日本関係史料の調査と研究資源化について
3. 学会等名 第31回日本資料専門家欧州協会（EAJRS）年次大会「日本資料における実質性・仮想性」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保谷 徹
2. 発表標題 東京大学史料編纂所を中心とする内外史料のデジタル公開の現状と今後の計画について 海外史料を中心に
3. 学会等名 横浜関係海外資料調査研究会12月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保谷 徹
2. 発表標題 在外未刊行日本関係史料蒐集事業のあゆみ
3. 学会等名 日本学士院 UAI 関連事業「在外未刊行日本関係史料蒐集事業」100周年・日蘭交渉史研究会70周年「日本関係海外史料蒐集事業の足跡」シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保谷 徹
2. 発表標題 古写真にみる幕末・明治初期の日本 ブルガー＆モーザーのガラス原板コレクション
3. 学会等名 平出歴史大学（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 保谷 徹
2. 発表標題 東京大学史料編纂所蔵外務省引継本のイタリア関係史料の紹介
3. 学会等名 国際研究集会「幕末・維新期の日伊関係史料」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡 美穂子
2. 発表標題 ポルトガル船の入港地変遷をめぐって 日本銀との関連から
3. 学会等名 大村市主催令和2年度郷土史講演会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡 美穂子
2. 発表標題 キリシタン 日本的なものが生じた背景
3. 学会等名 世界文化遺産登録2周年記念「潜伏キリシタンの祈りの世界」展記念講演(長崎県世界遺産課主催 オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡 美穂子
2. 発表標題 戦国武将たちの南蛮船誘致合戦
3. 学会等名 おおいた大友学セミナー 戦国史シンポジウム 戦国大名と鉱物物資(大分市主催 コンパルホール)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡 美穂子
2. 発表標題 グローバルな視点から見た南蛮貿易と石見銀山
3. 学会等名 第一回石見銀山研究会（石見銀山世界遺産センター）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 近代的国家領域の模索 海域と「日本」
3. 学会等名 世界遺産研究会、2021年1月22日、ZOOM開催
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 岡美穂子, 岩下哲典 (担当: 共編者(共編著者))	4. 発行年 2023年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 208
3. 書名 『つなぐ世界史』2 近世	

1. 著者名 荒木 裕行、小野 将 (共編)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 200
3. 書名 『日本近世史を見通す』3 体制危機の到来：近世後期	

1. 著者名 歴史学研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 「歴史総合」をつむぐ（本論文集内論文：谷本晃久「アイヌの人びとへの「同化」政策」、40- 47頁）	

1. 著者名 姜 尚中、青山 亨、伊東 利勝、小松 久男、重松 伸司、妹尾 達彦、成田 龍一、古井 龍介、三浦 徹、村田 雄二郎、李 成市	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 808
3. 書名 アジア人物史 第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ（本論文集内論文：岡美穂子「アジアのイエズス会士」、260-326頁）	

1. 著者名 北原モコットウナシ・谷本晃久（監修）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 KKベストセラーズ	5. 総ページ数 191
3. 書名 アイヌの真実	

1. 著者名 ルシオ・デ・ソウザ、岡 美穂子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 大航海時代の日本人奴隷	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷本 晃久 (Tanimoto Akihisa) (20306525)	北海道大学・文学研究院・教授 (10101)	
研究分担者	水上 たかね (Mizukami Takane) (20835483)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究分担者	岡 美穂子 (Oka Mihoko) (30361653)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	箱石 大 (Hakoishi Hiroshi) (60251477)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	小野 将 (Ono Sho) (70272507)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	横山 伊徳 (Yokoyama Yoshinori)	東京大学・名誉教授	
研究協力者	有泉 和子 (Ariizumi Kazuko)	東京大学・史料編纂所・学術専門職員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	犬飼 ほなみ (Inukai Honami)	東京大学・史料編纂所・学術専門職員	
研究協力者	及川 将基 (Oikawa Shoki)	東京大学・史料編纂所・学術専門職員	
研究協力者	加藤 絵里子 (Kato Eriko)	東京大学・史料編纂所・学術専門職員	
研究協力者	サイフマン トラビス (Seifman Travis)	立命館大学・アトリサーチセンター・准教授	
研究協力者	シュワインズバーグ アレクサンダー (Schweinsberg Alexander)	東京大学・史料編纂所・特任研究員	
研究協力者	クリモフ ワジム (Klimov Vadim)	ロシア科学アカデミー・東洋古籍文献研究所・上級研究員	
研究協力者	シェプキン ワシーリー (Schepkin Vasily)	ロシア科学アカデミー・東洋古籍文献研究所・上級研究員	
研究協力者	ロバーツ ルーク (Roberts Luke)	カリフォルニア大学・サンタ・バーバラ校・教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ヘリヤー ロバート (Hellyer Robert)	ウエイクフォレスト大学・教授	
研究協力者	ボツマン ダニエル (Botsman Daniel)	イエール大学・教授	
研究協力者	佐々木 利和 (Sasaki Toshikazu) (80132702)	北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・招へい教員	
研究協力者	鈴木 健治 (Suzuki Kenji) (00580929)	北海道大学・文学研究院・共同研究員	
研究協力者	鈴木 仁 (Suzuki Jin) (80938407)	北海道大学・文学研究院・専門研究員	
研究協力者	東 俊佑 (Azuma Shunsuke) (30370224)	北海道博物館・研究部歴史研究グループ・学芸主査	
研究協力者	兎内 勇津留 (Tonai Yuzuru) (50271672)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授	
研究協力者	田村 将人 (Tamura Masato) (60414140)	北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・客員研究員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	杉本 史子 (Sugimoto Fumiko) (10187669)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究協力者	山田 太造 (Yamada Taizo) (70413937)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究協力者	立石 了 (Tateishi Satoru) (10848873)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 東京大学史料編纂所国際研究集会「維新史料研究 と 国際発信」	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 東京大学史料編纂所国際研究集会「維新史料研究と国際発信」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 維新史料研究と国際発信	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 維新史料研究と国際発信	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 幕末・維新期の日伊関係史料	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 日露関係史料をめぐる国際研究集会（誌上開催）	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関